

企画展プレスリリース「没後10周年 平山郁夫 シルクロードコレクション展」

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

標記の件につきまして、本書のとおりご案内いたします。

1 展覧会名 「没後10周年 平山郁夫 シルクロードコレクション展」

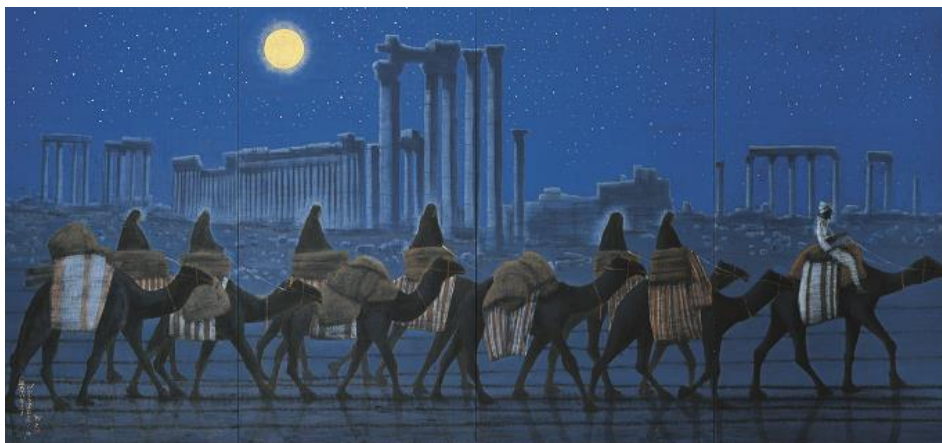
2 会 期 令和2(2020)年4月25日(土)～6月14日(日)

休館日：月曜日。ただしGW中の5月4日(月・祝)は開館，5月7日(木)休館

3 展覧会概要 (資料2～5ページ参照)

仏教東漸^{とうぜん}やシルクロードの文化交流をテーマとして作品を制作し、戦後の日本画壇を牽引した平山郁夫。本展では平山郁夫シルクロード美術館所蔵の平山郁夫の絵画作品と、取材に同行した夫人と共に集めた彫刻や工芸品により、平山夫妻の歩いた道を辿ります。

4 出品作品 (資料6ページ参照)



作家名・作品名・制作年・所蔵等

平山郁夫「パルミラ遺跡に行く・夜」2006年 所蔵・画像提供：平山郁夫シルクロード美術館

※広報用出品作品図版は10点あります。その他図版は資料6ページを参照してください。

5 オープニングイベント (先着50名様を無料ご招待) のご案内 (4ページ参照)

(1) 日時：4月25日(土)9:10～9:30 (受付8:40～)

(2) 会場：2階企画展示室入口

(3) 申込：先着50名 事前申込(来館，往復はがき，Eメール 申込方法の詳細は5ページ参照)

(4) 締切：4月15日(水)必着

※その他イベントについては資料4～5ページを参照してください。

《問い合わせ先》茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel:029-243-5111 / Fax:029-243-9992 / E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

展示担当：美術課 今瀬 / 広報担当：企画普及課 河野 / イベント担当：企画普及課 仲田

企画展プレスリリース「没後 10 周年 平山郁夫 シルクロードコレクション展」

1 展覧会名

「没後 10 周年 平山郁夫 シルクロードコレクション展」

2 主催等

主催：茨城県近代美術館，公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館，朝日新聞社
後援：水戸市，茨城新聞社，NHK水戸放送局，産経新聞社水戸支局，東京新聞水戸支局，
毎日新聞水戸支局

3 会期

2020(令和2)年4月25日(土)～6月14日(日)

休館日：月曜日。ただしゴールデンウィーク中の5月4日(月・祝)は開館，5月7日(木)休館

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

4 会場

茨城県近代美術館

5 入館料

一般 1,100(1,000)円，満70歳以上 550(500)円，高大生 870(730)円，小中生 490(370)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳・指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方は無料，5月23日(土)は満70歳以上の方は無料，土曜日は高校生以下無料

6 展覧会概要(約300文字)

平山郁夫(1930～2009)は仏教東漸(ルビ：とうぜん)やシルクロードの文化交流をテーマに，戦後の日本画壇において活躍した。平山は中学生の時に広島で被爆し，若い頃はその後遺症に苦しめられた。こうした体験から救いを求める気持ちと平和への祈りを託して，仏教をテーマとすること，人生の体験に基づく絵を描くことを制作の柱とし，140回以上シルクロード各地を訪問，現地に立った実感をもとにした独自の画風を築いた。

また平山は，取材に同行した美知子夫人と共にシルクロードの彫刻や工芸品の収集を行い，約9,000点のコレクションを形成した。美知子夫人は，取材に同行したことにより，日本文化とシルクロードの多くの国とのつながりを実感した，と語っている。

本展では平山郁夫シルクロード美術館所蔵の平山作品と，工芸品等のコレクションにより，平山夫妻の歩いた道をたどる。(359字)

【広報文1】(約40字)

戦後の日本画壇を牽引した平山郁夫の作品を，シルクロード各地の彫刻や工芸品と共に展示。(42文字)

【広報文2】(約70字)

戦後の日本画壇を牽引した平山郁夫の作品と，シルクロード各地の取材で平山が夫人と共に集めた彫刻や工芸品により，平山夫妻の歩いた道を辿る展覧会。(70字)

【広報文3】(約90字)

仏教東漸(ルビ・とうぜん)やシルクロードをテーマとし，戦後の日本画壇を牽引した平山郁夫の作品と，シルクロード各地の取材で平山が夫人と共に集めた彫刻や工芸品により，平山夫妻の歩いた道を辿る展覧会。(88字)

【広報文4】(約120字)

仏教東漸(ルビ・とうぜん)やシルクロードの文化交流をテーマとして作品を制作し，戦後の日本画壇を牽引した平山郁夫。本展では平山郁夫シルクロード美術館所蔵の平山郁夫の絵画作品と，取材に同行した夫人と共に集めた彫刻や工芸品により，平山夫妻の歩いた道を辿る。(116字)

7 展示構成と主な展示予定作品 ※出品リスト参照

- 第1章 文明の源流をたどって
平山郁夫「ウルの新殿」1974年
平山郁夫「コリントの遺跡」1978年
「首飾り」北メソポタミア 紀元前16-紀元前13世紀
- 第2章 アレキサンダー大王の足跡をたずねる
平山郁夫「パルミラ遺跡に行く・夜」2006年
平山郁夫「古代ローマの遺跡 フォロ・ロマーノ ローマ」2008年
平山郁夫「パルミラ遺跡に行く・朝」2006年
「アレクサンドロス3世(アレキサンダー大王)の銀貨」マケドニア 紀元前336-紀元前323年頃
「有翼馬留め金具」イラン 3-7世紀
- 第3章 私たちのシルクロード
平山郁夫「シャーモスク イスファハーン」2007年
- 第4章 絲綢之路(ルビ:しちゅうのみち)をゆく
「浮出鳥文水差」中央アジア 8世紀

8 見どころ

- (1) 絵画のみではない平山郁夫の世界
茨城県近代美術館では、1993年に平山郁夫の画業を振り返る展覧会を開催している。今回はシルクロード地域との関わりに焦点をあて、平山郁夫がシルクロードを描いた作品と、平山郁夫が平山美知子夫人(現・平山郁夫シルクロード美術館名誉館長)と共にシルクロード各地を取材のために訪れ、収集した彫刻や工芸品とを展示し、平山郁夫のシルクロードに対する思いを伝える。
- (2) サブタイトル「夫婦の視点が織りなす、人類への遺産」とは
取材旅行には平山美知子夫人も同行。平山美知子夫人は「できるだけ自分たちの足で歩き、その国の文化にふれることにより、今日本の文化と誇れるものほとんどは、多くの国の恩恵を受けたものであることを忘れてはならないという思いに達した」と述べており、コレクション形成には平山美知子夫人の思いも反映されている。
- (3) 当館で初となる古代の文物の展示
当館は通常「近代」の作品を展示するが、今回は「アレクサンドロス3世(アレキサンダー大王)の銀貨」(北メソポタミア 紀元前336-紀元前323年頃)や「クレオパトラとアントニウスの銀貨」(エジプト 紀元前37-紀元前32年)といった紀元前のコイン、ヘレニズム文化を示す「菩薩坐像」(パキスタン、ガンダーラ 1-3世紀)等、なかなか展示する機会のない作品を展示。美術の分野のみならず、中学や高校の日本史・世界史の教科書に掲載されているものの関連品としても見ることができる。
- (4) 日本文化の源流がシルクロードにあることを示す作品を展示
「浮出鳥文水差」(中央アジア8世紀)のほか、ガラスや染織品のいくつかは、奈良の正倉院に伝わる宝物に類似している。これらの工芸品をシルクロードの地で実際に目にした平山夫妻は、正倉院の宝物を連想し、日本文化の源流がシルクロードにあることを実感してコレクションに加えたと思われる。今回の展覧会は、正倉院に伝わる宝物に類似する工芸品を、茨城で鑑賞することができる機会としても貴重である。
- (5) 失われた文化財について考えるきっかけとなる作品を展示
今回出品されている作品のうち、バーミアン大仏は2001年に、パルミラの遺跡は2015年に破壊を受けた。破壊される前に現地を取材した平山が描いた「バーミアンの石窟 五十二メートルの大石仏アフガニスタン」(1997年)やパルミラ遺跡に行く・朝(2006年)、「パルミラ遺跡に行く・夜」(2006年)等は戦乱と文化財についても考えるきっかけにもなる。
- (6) シルクロードブームと平山郁夫
戦後の1960年代から1980年代は、井上靖『敦煌』(1960年)、江上波夫『騎馬民族説』(1967年)、中国との国交回復(1972年)、NHKの番組「シルクロード」(1980年代前半)の放映と楼蘭のミイラ

企画展プレスリリース「没後 10 周年 平山郁夫 シルクロードコレクション展」

の紹介等、日本とシルクロードとのつながりが注目された時期でもあった。1959 年にシルクロードに関係する絵を描き始めた平山は、戦後のシルクロードブームのきっかけをつくった一人でもあり、江上波夫、井上靖と共に取材に行ったこともあった。

(7) 茨城と平山郁夫のかかわり

岡倉天心から横山大観に受け継がれた新しい日本画を作る、という思いは、大正時代の日本美術院の再興を経て現在に至っているが、再興日本美術院の画家で、東京藝術大学でも教えた前田青邨は平山の直接の師であり、平山は天心からの直系の弟子ともいえる。画家自身もそれを意識し、日本美術院の第 50 回展記念展には「日本美術院血脉（ルビ：けつみゃく）図」（1965 年 茨城大学所蔵・今回の出品はなし）を出品している。また平山は 1989 年に日本美術院の関係者として、天心以降初めて東京藝術大学の学長になった。東洋美術全体をとらえた上で新しい日本画を創り出していくために、シルクロードを取材するという姿勢にも、日本美術の源流をアジアにもとめた天心の影響がみられる。

(8) 集大成となる「大シルクロードシリーズ」より 3 点を展示

平山は晩年、シルクロードを旅するラクダの隊商（キャラバン）を描いた「大シルクロードシリーズ」を相次いで発表した。現在平山郁夫シルクロード美術館で展示されているこのシリーズは、東と西、朝と夜、太陽と月を示すオレンジ色と群青色を背景に歩みを進めるラクダの隊商が描かれており、平山のシルクロード絵画の集成ともいえる。本展覧会ではそのシリーズのうちの 3 点を展示する。

9 会期中のイベント

(1) オープニングイベント

日時：4月25日(土)午前9時10分～9時30分(受付8時40分～)

会場：2階企画展示室入口

申込：事前申込 先着 50 名(下の申込方法をご参照下さい)

申込締切：4月15日(水)必着

参加特典：一般参加者 50 名は、当日のみ入場料無料

(2) 講演会「平山郁夫 シルクロードの旅とコレクション」

講師：平山東子(ルビ：とうこ)氏(平山郁夫シルクロード美術館館長)

日時：4月25日(土)午後2時～

会場：地階講堂

定員：先着 250 名(参加無料)

申込：事前申込(下の申込方法をご参照下さい)

申込締切：4月15日(水)必着

(3) 令和2年度 第1回 ミュージアムコンサート「遙かなるシルクロード～二胡が紡ぐ悠久の調べ」

出演：馬 高彦(ルビ：マ ガオイエン)、二胡

日時：5月2日(土) 午前11時、午後2時の2回(各回30分)

会場：1階エントランスホール

定員：各回 150 名(参加無料、申込不要)

(4) 学芸員によるギャラリートーク

日時：5月16日(土)、5月30日(土) 午後2時～

会場：企画展示室

定員：なし(申込不要、要企画展チケット)

講師：今瀬佐和(当館首席学芸員)

企画展プレスリリース「没後 10 周年 平山郁夫 シルクロードコレクション展」

【イベント申込方法（オープニングイベント、講演会）】

※申込締切については4月 15 日(水)必着。募集定員に達した場合は、その時点で申込を締め切らせていただきます。

- 来館の場合…美術館の受付にある参加申込書に記入。
- 往復はがきの場合…往信用文面に①希望者全員（1枚につき4名様まで）の氏名、代表者の②住所③年齢④電話番号⑤返信用宛名面にも住所、氏名を記入し、当館「平山郁夫展オープニングイベント係」もしくは「平山東子氏 講演会係」まで送付。
- Eメールの場合…件名に「平山郁夫オープニングイベント参加希望」もしくは「平山東子氏 講演会参加希望」、本文に①希望者全員（1件につき4名様まで）の氏名、代表者の②住所③年齢④電話番号を記載の上、下記の申込専用アドレス宛に送信。

各イベント申込用Eメール宛先

オープニングイベント係 hirayama.open@modernart.museum.ibk.ed.jp

平山東子氏講演会係 toko.koenkai@modernart.museum.ibk.ed.jp

10 問い合わせ先

茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel:029-243-5111 Fax:029-243-9992 E-mail:fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

担当学芸員：美術課 今瀬 / 広報担当：企画普及課 河野 / イベント担当：企画普及課 仲田

出品作品図版

- ※ 1 このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。
- ※ 2 画像には、作品キャプションの後ろに「所蔵・画像提供：平山郁夫シルクロード美術館」を必ず入れてください。
- ※ 3 画像掲載の際には、当館までご一報ください。
- ※ 4 画像のトリミング・文字のせはお控えください。

- 1 平山郁夫「パルミラ遺跡に行く・夜」2006年
- 2 平山郁夫「古代ローマの遺跡 フォロ・ロマーノ ローマ」2008年
- 3 平山郁夫「パルミラ遺跡に行く・朝」2006年
- 4 平山郁夫「コリントの遺跡」1978年
- 5 平山郁夫「ウルの神殿」1974年
- 6 平山郁夫「シャームスク イスファハーン」2007年
- 7 「首飾り」北メソポタミア 紀元前16-紀元前13世紀
- 8 「アレクサンドロス3世(アレキサンダー大王)の銀貨」マケドニア 紀元前336-紀元前323年頃
- 9 「有翼馬留め金具」イラン 3-7世紀
- 10 「浮出鳥文水差」中央アジア 8世紀



1



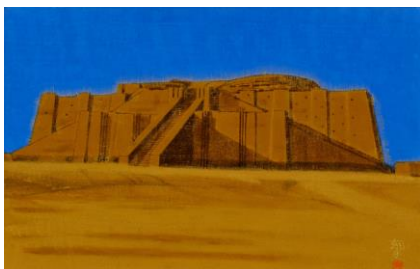
2



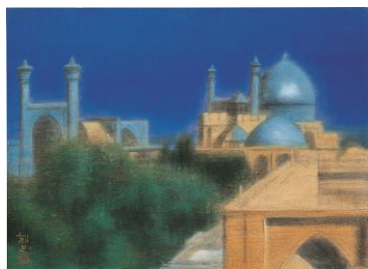
3



4



5



6



7



8



9



10